

■ リバプール国立博物館の Merseyside Maritime Museum 収蔵史料

リバプールの交易記録 1820-1900 年

Liverpool shipping records: imports and exports, 1820-1900

イギリスの主要港としてのリバプールの成功を探る

本コレクションは、リバプール市の輸出入の 80 年間に記録されています。リバプールに停泊した船舶の報告書や積荷目録から得られた税関の申告書が収録されており、リバプールの海運の歴史と 1828 年から 1900 年の間にリバプールで取引された商品について、独特の洞察を提供しています。

この時期の市の繁栄は、イギリスの主要な港の一つとしての海運の成功によって築かれました。18 世紀初頭、リバプールの商人たちは、アイルランドやヨーロッパとの既存の貿易関係に加えて、大西洋周航を行うようになり、リバプールは、タバコ、砂糖、藍、米、ラム酒、綿花など、さまざまな帝国貿易ネットワークに深く関わるようになりました。リバプールで取引された商品の多くは、奴隷の労働力によって生産され、リバプールとその商人たちは大西洋奴隷貿易の主要な担い手でした。1800 年までに、リバプールは世界最大の奴隷貿易港となり、市の富と発展の多くは奴隷制度と三角貿易に依存していました。



1807 年、奴隷貿易法が可決され、大英帝国全体での奴隷貿易が禁止されました。これにより、それまで奴隷貿易に深く関わっていたリバプールの海運は劇的に変化しました。しかし、商人たちは奴隷によって生産された商品の取引を続け、奴隷制度はリバプールの貿易ネットワークに影響を与え続けました。

税関の申告書は、輸出入を記録した印刷物です。リバプールの最初の申告書は 1750 年頃に印刷され、時間とともに広範になり、最終的には地域の商業コミュニティのためのビジネス新聞として機能するようになりました。1840 年代後半までには、日曜日を除いて毎日印刷され、リバプールの海上貿易の包括的な概要を提供していました。本コレクションには、船舶の名前、出発地、目的地、船長、トン数、到着・出発日、貨物の詳細、各積荷に関連する人物や会社の名前など、詳細な情報が含まれています。

さらに、リバプールの貿易ルートと関係の性質と発展についても詳細な概要を提供しています。特に産業革命期において、イギリスが新しい技術とプロセスを用いて製造された大量の商品を輸出し始めた際の、貿易の優先順位の変化も浮き彫りにしています。重要なことに、これらの文書は、イギリスの商業的利害とネットワークが、広大なグローバル帝国の基礎を築いたことも示しています。

大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
Archive 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は**不要**です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp





このコレクションの文書は、リバプールを出入りする主要な輸出入品を詳細に記録しています。ジャマイカからはピメントとログウッドがイギリスに輸送され、マスタードの種子、甘草の根、サフランはインドから来ました。ニューオーリンズからはベーコンとラードが運ばれ、スペインからはワイン、レモン、オレンジが輸入されました。一方、イギリスはアフリカにタバコ、ペイント、ミシンを輸出し、シンガポールには綿、石鹼、工具を、ブラジルにはワイン、革製品、ガラス製品を輸出しました。

リバプールは18世紀には主要な奴隷貿易港でした。これは1807年の奴隷貿易廃止後、そして後の1833年以降のほとんどのイギリス植民地でのプランテーション奴隷制の終焉後に変化しました。その後、綿花がリバプールで最も重要な商品となりました。1784年、北米からの最初の綿花がリバプールに到着しました。1850年までに、年間150万俵以上の綿花がアメリカからリバプールに輸入され、綿花は市の貿易の約半分を占めるようになりました。この綿花ブームは、1865年まで北米で奴隷制が廃止されなかったため、奴隷労働によって生産された綿花に依存していました。ランカシャー全域の工場がこの綿花を完成品や衣服に加工し、それらはリバプールの埠頭から世界中に輸出されました。

■第1部から第4部まで、期間ごとに整理されたアーカイブ

※コレクションのページをPart1からPart4まで分割してコンテンツを収録しています

第1部

1. Bills of Entry, 1828-1830
2. Bills of Entry, 1831-1835
3. Bills of Entry, 1836-1840
4. Bills of Entry, 1841-1845
5. Bills of Entry, 1846-1850
6. Bills of Entry, 1851-1855
7. Bills of Entry, 1856-1860

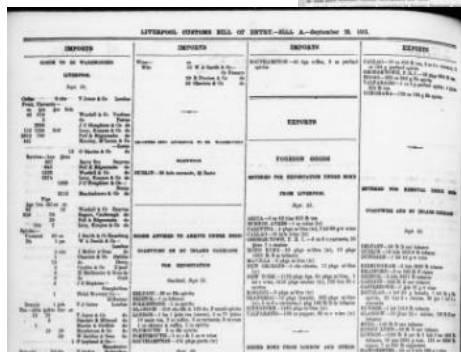


第2部

1. Bills of Entry, 1861-1865
2. Bills of Entry, 1866-1870

第3部

1. Bills of Entry, 1871-1875
2. Bills of Entry, 1876-1880
3. Bills of Entry, 1881-1885
4. Bills of Entry, 1886-1890



第4部

1. Bills of Entry, 1891-1895
2. Bills of Entry, 1896-1900

British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp